

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策1-3-2 情報発信等誘客宣伝活動の強化
---------	------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	観光振興課長 藤井 洋一	電話番号	0852-22-6257
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	神々のご縁観光総合対策事業		
目的	(1) 対象	旅行ニーズを持つ県外在住者および県内の観光事業関係者	
	(2) 意図	「神々の国しまね」プロジェクトの成果を踏まえ、島根のイメージを力強く発信することなどにより、切れ目のない誘客を図る	
事業概要	<p>【新たな手法を活用した観光情報の発信】島根県の認知度向上のため、自ら情報発信者となる層に対して「ご縁」をテーマにしたイメージキャンペーンや、キャラクター素材の活用、SNSを活用した情報発信を実施する。</p> <p>【着地型観光の推進】着地型観光を推進するため、「神々」や「ご縁」といった島根のイメージを体感し、楽しめる観光商品の造成や地域資源を活用した観光地づくりを行う。</p> <p>【観光人材の育成、基盤の強化】観光産業を担う人材の育成・基盤の強化を図るため、若手経営者向けのセミナーの開催や、市町村観光協会への観光コーディネーター設置を支援する。</p> <p>【伸びしろある市場の開拓】新たな市場を開拓するため、MICEや教育旅行等の誘致に向けた取り組みを実施する。</p>		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	「行ってみたい都道府県」順位	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00	0.00	0.00	
式・定義	県が独自に実施する観光認知度調査における「行ってみたい都道府県ランキング」		実績値	0.00	0.00	10.00	14.00		
			達成率		0.00	0.00	0.00		%
式・定義	指標名	観光入り込み客延べ数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		29,700	29,500	29,300	30,000	
式・定義	毎年の観光動態調査結果		実績値	27,489	29,188	36,819	33,207		
			達成率		98.30	124.80	113.40		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	354,640	414,154
うち一般財源 (千円)	354,640	414,154

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

【新たな手法を活用した観光情報の発信】タレントを起用したイベントや交通広告の展開、キャラクター素材を活用した情報発信により、マスメディアでの露出度が高まり、島根の認知度向上につながるのと同時に、「神々」「ご縁」といった島根のイメージがへのより一層の訴求が図られた。

【着地型観光の推進】「神々」や「ご縁」といった島根のイメージを体感できる観光商品の造成等につながる事業を支援。

【観光人材の育成、基盤の強化】市町村観光協会への観光コーディネーター設置支援、宿泊施設職員向け研修を実施した。

【伸びしろある市場の開拓】企業を対象としたマーケット調査の実施や企画・素材集を作成するなど、企業の会議や研修・報奨旅行の誘致に取り組んだ。また教育旅行の誘致を行うため、素材説明会やモニターツアーを実施した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

【新たな手法を活用した観光情報の発信】タレントやキャラクターがメディアで取り上げられることにより、「島根」＝「ご縁」など島根のイメージへのより一層の訴求が図られた。

【着地型観光の推進】【観光人材の育成、基盤の強化】「神々」や「ご縁」といった島根のイメージを体感できる観光商品の造成や観光産業を担う人材育成が進み、誘客促進と、受入体制の充実により一定の効果があつた。

【伸びしろある市場の開拓】MICEのマーケット調査により今後の誘致活動につながる取り組みができた。また、MICEの素材集の作成や、教育旅行モニターツアーの実施等により誘致活動の強化を図ることができた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
 - 【全体】「島根」＝「神々」「ご縁」といったイメージが一定程度浸透し、観光商品の造成や観光産業人材の育成が進みつつあるものの、H26年の県全体の観光入り込み客数はH25年より減少し、石見地域においてはH25年以前から減少傾向、隠岐地域も横ばい傾向にある。
- ②困っている状況が発生している「原因」
 - 【全体】島根県の観光入り込み客数はH24年よりも増加したが、出雲大社の本殿遷座祭を中心とした一連の祭礼や奉祝行事による誘客効果が石見・隠岐地域まで十分に波及したとは言えず、またH25をピークに行事等が一段落したことにより、今後の島根への観光誘客の目玉となる話題や素材が十分にない。
- ③原因を解消するための「課題」
 - 【情報発信、着地型観光】島根への観光誘客を促進するため、これまで進めてきた「島根」＝「ご縁」など島根のイメージを定着させるよう引き続き情報発信に力を入れるとともに、そのイメージを体感できる新たな切り口での商品造成を県内全域で行い、島根の魅力づくりを進める必要がある。
 - 【市場の開拓】今後の需要の高まりが期待できるMICEや教育旅行など新たな分野での誘致活動も引き続き強化する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

【新たな手法を活用した観光情報の発信】H27年からの「ご縁の国しまねプロモーション」では、県内を3地域（出雲・石見・隠岐）に分け、それぞれPRする新たなイメージキャラクターを起用し、メディアでの露出増加を狙うとともに、プロモーション効果が特定の地域に偏ることなく県内に及ぶよう展開する。

【着地型観光の推進】観光客の満足度を向上させるため、歴史文化や自然など島根ならではの魅力を体感していただけるよう、新たな観光素材、商品造成の開発につながる取り組み・支援を行う。

【伸びしろある市場の開拓】招致活動や受け地整備を行い、引き続きMICEや教育旅行の誘致に積極的に取り組む。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）